

校長室だより

令和2年7月9日 No18
大田区立入新井第五小学校
校長 岡野 範 嗣

リモート 児童集会

一昨日、リモートで七夕集会が行われました。本来なら、子どもたち全員が体育館に集まり、みんなでワイワイ楽しみたいところなのですが、コロナウイルス感染防止のため、今年はそれが実現しませんでした。そこで、集会委員担当の先生方が知恵を絞り、ICT機器を駆使したリモート集会を計画してくれました。集会委員会の子どもたちは、旧パソコン室に集まり、自分たちのコーナーごとに出演し、1年生から6年生まで、みんなが楽しめるようにと、一生懸命演じてくれました。クラスごとの願い事を発表するコーナーがあったり、七夕にまつわるクイズコーナーがあったり、今まで練習してきたことを、精一杯出し切ろうとする子どもたちの姿は、とても真剣で素晴らしいかったです。今後も、行事や集会の中止の判断をする前に、なんとか安全を確保しながらできるようにする方法はないかを考え、学校生活に潤いを与える子どもたちにとっての楽しみを、今後も大切にしたいと考えています。

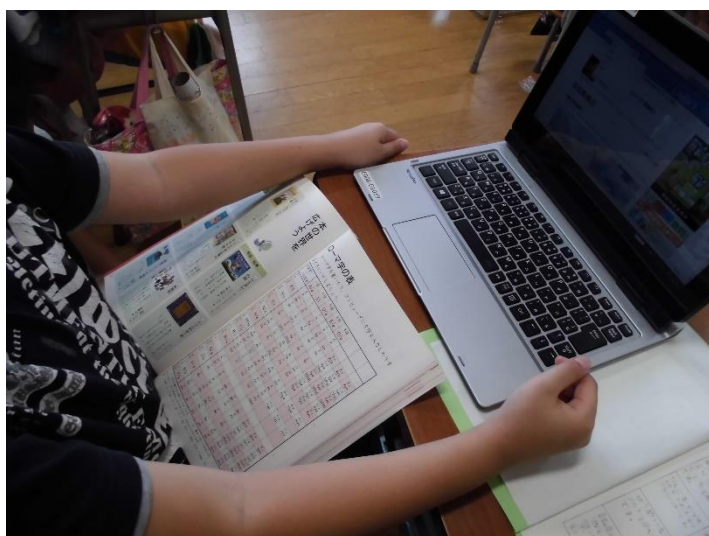


★▲●■ 今週は、ENGLISH WEEK ■●▲★



今週は、イングリッシュウィークです。1年生の保護者の皆さんには、「何をするのかな？」という疑問があたりだと思うので、ご説明します。実は、私もこの4月に入五小に移ってきたときに、英語に関する掲示物がたくさんあることに、とても驚きました。これは、以前本校が大田区の研究指定を受けて外国語活動（英語）の指導に力を入れていたところから、継続的に続けている取組みなのだそうです。前任の小野関校長先生も、大田区の英語部の部長をされていたこともあって、子どもたちは、日常的に英語に親しむ環境に育っていました。ですから学校給食でも、英語の歌がたくさん流れますし、イングリッシュウィーク中は、英語で朝の挨拶や、先生とのやり取りをしています。「英語が話せる」、「聞き取れる」ということは、将来大きなプラスになります。いつも興味をもって、英語に親しんでほしいと願っています。

●●●● ローマ字入力 頑張るぞ！！ ●●●●



4年生の教室をのぞいてみると、子どもたちが何やらタブレットを用いて、調べ学習をしています。この光景は、特に珍しいことではないのですが、今日は少し目に留まったことがあったので、記事にしてみます。写真のタブレット端末と子どもの間には、ローマ字表が置いてあって、この子は一生懸命ローマ字入力に挑戦しているのです。一昔前、学校では日本語入力が主流でしたが、キーボードの位置を50カ所近く覚えなければならないだけでなく、途中から

ローマ字うちに変えようと思っても、なかなか順応しにくいというデメリットがありました。ですから、今はローマ字入力が早い時期から、できるようになることを推進しています。小さな声で、「みんなもできるの？」ときくと、「結構できるよ」と教えてくれました。タブレットのメリットは、指先入力やペン入力ができることですが、社会人になった時のことを考え、キーボードを用いたローマ字入力ができるようになることを、支援していきたいと思います。